

平成 26 年度創立記念式典について

平成 26 年 12 月 16 日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、平成 26 年度創立記念日記念式典を下記の通り開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 開催日時: 平成 26 年 12 月 10 日(水) 9 時 30 分から 12 時 00 分
2. 場 所: 鉄道総研 国立研究所 講堂
3. 列席者: 鉄道総研役員および職員 (約 450 名)
4. 式次第:
 - (1) 会長挨拶
 - (2) 理事長挨拶
 - (3) 表彰等
 - 研究開発成果賞・業務成果賞
 - 研究開発成果褒賞・業務成果褒賞
 - 研究開発奨励賞
 - 所内表彰受賞者代表答辞
 - 永年勤続 15 年表彰 (5 名)
 - 永年勤続 15 年表彰受賞者代表答辞
 - 資格等取得者への記念品等贈呈
(博士号取得者 10 名、技術士取得者 15 名、社会保険労務士取得者 1 名)
 - (4) 記念講演
「はやぶさから伝えたい、創る力の育て方」
独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA)
宇宙飛翔工学研究系教授 川口 淳一郎氏

【会長挨拶 要約】

鉄道総研の 1986 年の創設以来、第 28 回目の創立記念日をめでたく迎えることができました。特に本年はリサーチ 2010 の最終年度であると同時に、次期基本計画の策定に向けた作業が、新しい鉄道総研のビジョンのもとで着々と進められております。そこで、具体的な開発プログラムを考える場合に、私の個人的な意見として、特に 3 つの点を皆さんにお話したいと思います。

第一は、技術開発の目標の設定という問題です。最近の技術開発は、出口指向といって、最終開発が終わった段階での実用の形を常に意識しろと言われております。これは、開発終了時における実



写真 挨拶を行う 鉄道総研 会長 正田英介

用化に必要な具体的な目標を予め設定して、それが正しく達成できるようにプログラムを組んでいくということであり、ぜひ今回の技術開発では、新しい革新につながるような研究プログラムをお願いしたいと思っております。

第二の点は開発のスピードという問題です。最近では技術開発を行う場合に、環境の配慮とかいろいろな評価項目を満たすとか、いろいろと理由はあると思いますが、社会全体で技術開発のスピードが低下しております。例えば、我が国の交流電化の開発というのは極めて短期間に2～3年程度で実用化されましたが、このように、実用化とは本当は短時間で終わることが大事でありまして、これからの研究開発においても、やはりスピード感を持ってやっていただくことをお願いしたいと思います。もちろん、闇雲に急げばよいというものではなくて、普段から周囲の技術の状況について十分な調査を行い、慎重かつ効率的にスピードを上げる準備をして下さい。

第三の点は国際的な視点であります。鉄道産業としても将来の市場が海外が中心になると予想しており、メーカーは生産拠点を海外に移したり、国際標準を満たした製品の提供を行うといったことが行われてきています。鉄道総研も、海外での展開を視野に入れた運営がされようとしておりますが、研究開発においても、海外でそれが実用化されるということについて頭の中に意識を置いておいていただきたいと思います。ただし、海外において、日本の繊細な鉄道技術がそのまま適用できるというものではありません。皆さんの持っている技術が世界に打って出るための特徴は何かということを十分考えて、相手の立場に沿ったバリエーションというのを考慮してください。

研究については、よい開発プログラムができれば、開発の成功の可能性が極めて高くなります。新しい研究計画発足までの期間を有効に使っていただいて、是非、次期のプログラムというものをよく考えて成功のために頑張ってください。

【理事長挨拶 要約】

鉄道総研が発足して、28年、ここまで歩んで来たことを大変喜ばしく思っています。これも、ここに集っている皆様方、あるいは先輩方の努力の積み重ねであろうと思います。私たちはこれからの28年にむけ、次の世代の人達のためにも鉄道の研究開発を続けていかなければなりません。

研究開発では現在280のテーマに取り組み、180名を超える人達が博士の学位を取得して学術的にも活躍されています。さらに海外では、8名の方が長期に各国で研究を行っています。この10年ほどで、鉄道総研の研究者の活動の状況も大きく変わってきたと思います。

さて、イノベーションについて大きな話題がありました。今年ノーベル物理学賞を受賞した青色発光ダイオードです。省エネルギーかつ長寿命の照明装置のみならず、通信分野、農業分野、医学分野、ほぼすべての分野に実用されていることこそ、LEDの技術がイノベーション、社会における価値を創造したのだと思います。

鉄道に目を向ければ、今年、東海道新幹線は開業50周年を迎えました。新幹線技術による高速鉄道の拡大は、日本のみならず、世界の高速鉄道ネットワークの原型になり、それによって、人の移動範囲、時間、居住地域、観光なども含めて、大きく社会の発展に貢献しました。新幹線システムは、紛れもないイノベーションであると言えるでしょう。今後とも、私たちはこのようなイノベーションに向けて、人の役に立つ、社会に貢献するという大きなマインドを持って研究開発を行っていききたいと思います。



現在、鉄道総研のビジョンならびに今

写真 挨拶を行う 鉄道総研 理事長 熊谷則道

公益財団法人 鉄道総合技術研究所

〒185-8540 東京都国分寺市光町 2-8-38

後5年間の活動の基本計画（RESEARCH 2020）を策定しています。詳細は後日、披露目をするとして、私は、来年度に向けて実施する二つのこととお話します。

一つは、若い人からベテランまで、多くの人の能力を活用するルールを立ち上げることです。特に、入社して十年未満くらいの若い方にも、主務者として研究テーマを責任持って進めてもらうためのしくみは、失敗するにも、成功するにしてもチャレンジの機会であるはずです。幅広く総力を結集して、鉄道総研の総合力の向上を目指したいと思います。

二つめは国際的なプレゼンスの向上です。既に鉄道技術のグローバル化が始まっていますので、海外に向けて私たちがお役に立てる鉄道技術成果やコンサルティングを行えるよう、海外の方とのネットワーク作り、語学力向上、基礎情報の収集を行える体制をつくっていきたいと思います。

皆さん鉄道を愛して、好きな方ばかりだと思いますので、大きな推進力で進んでまいりましょう。

【主な表彰内容】

■特別賞

- ・「ラダー軌道システムの開発・普及」：
ラダー軌道システム開発グループ（7名）

■研究開発成果賞

- ・「在来線優等車両の乗り心地向上」：
菅原能生 車両構造技術研究部走り装置主任研究員
小島崇 総務部 出向
風戸昭人 車両構造技術研究部走り装置主任研究員
中川千鶴 人間科学研究部人間工学主任研究員
川上正一郎 車両構造技術研究部車両運動研究員
中橋順一 車両構造技術研究部車両運動主任研究員
- ・「無線式列車制御システムの安定性評価手法の開発」：
川崎邦弘 信号・情報技術研究部ネットワーク・通信研究室長
菅原宏之 信号・情報技術研究部列車制御副主任研究員

■業務成果賞

- ・「機関損傷調査」：
山本勝太 車両構造技術研究部車両強度副主任研究員
宇治田寧 研究開発推進室計画課長
小川知行 車両制御技術研究部動力システム副主任研究員
村上浩一 車両制御技術研究部動力システム研究室長
- ・「国立研究所用地策定の完遂」：
飯島清一 総務部環境管理課長
武藤陽一 元総務部主査

■研究開発奨励賞

- ・「降雨浸透を受けた盛土の地震時挙動評価手法の開発」：
松丸 貴樹 人事交流：東京大学
- ・「画像認識技術を用いた信号設備の施工・保全の効率化」：
長峯望 信号・情報技術研究部信号システム副主任研究員
- ・「感覚特性を考慮した列車内の温熱快適性指標の開発」：
遠藤広晴 人間科学研究部人間工学副主任研究員
- ・「RC高架橋の構造物音発生メカニズムの解明」：
渡辺勉 鉄道力学研究部構造力学副主任研究員